

(寶曆二年) 四月廿六日

奥村丹後守様

菊池彌四郎

近年内外惣構御堀之内に、諸方よりごみ持出捨候に付、御堀埋候而水溢、往來指支申所多御座候。依之度々惣構橋番人共々申渡、爲制候得ども承引不仕候。且又御荷川筋其外所々、居屋敷之内に水取候面々、水口近所石垣損、往來差支候所々茂數ヶ所御座候。右御修復度々申渡、御費之筋多御座候。此度内外御堀江さらへ申付候間、以來右之族無之様仕度段、道橋裁許與力申聞候。此儀兼而私共より茂可申上と相心得罷在候儀御座候間、右之趣一統嚴重被仰談可被下候。以上。

(寶曆五年) 三月十二日

青地彌四郎

津田宇右衛門

長九郎右衛門様

五 御家中出銀之御定

覺

一、百石に付二十五匁宛

無役并役仕面々、御用御番相勤者

内十匁は三月晦日切

十五匁は十月晦日切

一、百石に付七十五匁宛

無役并役仕面々、幼少人、十二ヶ月越十三ヶ月より之病人、御番相勤御用被仰付刻病者之及斷者

内三十匁は三月晦日切

四十五匁は十月晦日切

但、無由緒斷申者は、隨其品急度曲言可被仰付事。

一、百石に付百二十五匁宛

三十六ヶ月越三十七ヶ月より之病人

内五十匁は三月晦日切

七十五匁は十月晦日切

一、江戸・京々引越、御國々御供使不仕ものは、出銀取り有間敷事。

一、他國々御使參候ものは、日數多少によらず、出銀やり

取可仕事。

一、新知并御加増被下人々、其年之收納仕候はゞ、春秋之出銀、暮一度惣一統月切に出銀可仕事。

一、一統出銀仕以後御知行被下者は、年内出銀可仕。但月迫に御知行被下候者、到春茂出銀可仕事。

一、到于翌年御藏返被下候者は、前年之當り一兩月之内出銀可仕事。

一、御藏入知、出銀有間敷事。

一、寺社領・けはひ田、并五十石より下之ものは、出銀御赦免之事。

一、領知には出銀やり取有間敷事。

一、與力明知、出銀有間鋪事。

一、御折紙高出銀可懸事。

右被仰出之通無相違可有裁許者也。

寛文四年十月六日 御印

奥村河内

今枝民部

奥村因幡

前田對馬

御家中出銀奉行

御家中一統出銀御定書并御追加、今度一紙御書載御印被成候條、寫進之候。御組中・御自分共に其御心得可被成候。

就夫一統出銀之儀替儀無御座候者、重而申彌間敷候條、勿論年中兩度之月切に彌御上可被成候。恐惶謹言。

辰十月廿二日

寺西若狹

六 縁組之儀御定

最前如被仰出候、御家中三千石以上与頭・物頭、并御近習被召仕候面々縁組之儀、一切下に而不申合、其身又者せがれ・娘縁組之儀、如何様に茂被仰付被下候様に、以書付親可被申候。跡々より右之趣被仰出儀に候得ども、彌爲念如此候。若下に而申合置候段脇より立御耳候者、如何可被仰出茂難計儀に候間、各爲御心得申達候。如例御名之下御判形可有之候。以上。

戌十一月廿一日